



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 7

2017.10.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

信州大学見本市／桜枝町公民館連携事業／ESD研修事業／ESD小事典／お知らせ

8月21日に「第4回信州大学見本市」が伊那市役所で開催されました

信州大学では研究成果の研究交流と対外発信をねらいとして毎年「知の森総合展」を開催してきました。今年は90ブースが出展されその1つとして「信州ESDコンソーシアム」も昨年の研修会やユネスコスクールの成果発表会、交流会などの成果をパネル展示しPRしました。参加者は440名で盛況でした。



9月3日に桜枝町公民館との連携事業「触れる地球ーみんなの未来を地球規模で考えよう」が共催されました。

ESDは学校のみでなく地域の様々なセクターの連携によってより良い明日を創る活動であり、今回は信州大学教育学部の地元公民館との初の連携事業が実施されました。参加者は長野市第一地区住民主体に41名でした。

長野市地球温暖化防止活動推進センターの堀池政史さんを講師に、「触れる地球」を用いて現在の地球の姿を様々な環境的視点から解説いただくとともに、手回し発電機を使った実験コーナーと、ESDについて紹介するポスターブースを設け、見て、触れて、考えることができる場としました。当日は地区の幅広い年代の方が参加され、環境問題を通じて人類の未来について深く考えるきっかけになりました。



10月1日に「ESD推進の手引」を活用した研修事業ー長野県ーが開催されました。

10月1日上記研修事業が伊那市役所において開催されました（主催：文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)）。会場となっている伊那市は、ジオパークとユネスコエコパークに重複登録されている自治体です。この二つはいずれも持続可能な地域づくりを目指した制度で、その実現のためにESDに注目したそうです。研修会の参加者は、午前中の講演会が26人、午後のワークショップが18人。長野県内ばかりではなく、静岡県や横浜市からも参加者がありました。

午前中の講演は2題。静岡大学の山本隆太先生からは、ジオパークとESDとの関わりを中心に話題提供がありました。ジオパークネットワークでは昨年の全国大会でESDの推進を宣言したそうです。横浜市立永田台小学校校長の住田昌治先生からは、学校経営の中でのESDの推進について、経験に基づくご講演がありました。ESDに学校全体で取り組むためには、まず学校の先生が「幸せ」に取り組むことができないといけない、との問題意識から、教職員の働き方改革を推進されたお話は、多くの教育関係者が共感していたようです。また午後には「持続可能性」について考えるため、グループに分かれて「持続可能な村とはどんな村か?」「それには何が必要か?」というお題でワークショップを行いました。「自然豊かな場所で、きれいな農地や牧場があるといいよね」「村には学校も図書館も警察署も必要」「電気はグリーンエネルギーでまかなおう」「お年寄りばかりでなく、子どもがいる村がいい」「地域だけですべての運営費をまかなえるのかな?」... 財源の制約を無視してもなお、持続可能な地域社会への道は険しそうです。

さて、1日のプログラムを通して、実は一度も「ESD推進の手引」の冊子を使っていませんでした。不思議に思って企画側の方になぞねてみると、ESDは知識を詰め込んで理解するものではなく、考えさせてはじめて身につくものなので、あえてテキストは一切使わない研修会の設計にしたとのこと。こういう考えかたもあるということが、私にとっては一番の発見でした。(水谷瑞希)



ESD小辞典



RCEとは (Regional Centre of Expertise on ESD)

国連大学が推進する「持続可能な開発のための教育に関する地域拠点」です。「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD) とは、環境、経済、社会、文化を包括的に考慮した持続可能な社会づくりのための担い手づくりです。

DESDの先導機関であるユネスコ(国連教育科学文化機関)は、2005年から始まった国連・ESDの10年(DESDE)のビジョンとして、「誰もが質の高い教育により恩恵を受ける機会があり、持続可能な未来や前向きな社会への変革に向けて要求される価値観、行動、ライフスタイルを学ぶ機会があるような世界」を提示しています。

国連大学では、このビジョンの独自の解釈として「世界的な学習の場(グローバル・ラーニング・スペース)」の形成を提唱しました。国連大学高等研究所のESDプログラムでは、ESDに関する地域拠点(Regional Centre of

Expertise on ESD: RCE) づくりを通して、誰もが世界のどこにいても持続可能な開発について学び実践して行く場を形成することが、DESDの目に見える成果となり、その成功

に貢献すると考えています。そのためにRCEを世界各地に設けています。各RCEが地方レベルで達成した成功は、世界中の世界のRCEネットワークを通じてスケールアップされています。地元の知識、専門知識、ベストプラクティスは、ネットワークを通じて世界中で共有され、他の地域でも適用され、適

用されます。RCEはまた、プログラムや活動を通して、地方レベルでのグローバルな技術、知識、経験の移転に中心的な役割を果たしています。日本国内のRCEは、以下の6つがあります。RCE北海道道央圏、RCE仙台広域圏、RCE横浜、中部ESD拠点、RCE岡山、RCE北九州です。



お知らせ

11月11日(土)に「ワークショップ: このTシャツはどこからくるの?」が開催されます。1枚のTシャツ、誰がどこで、どんな作業で作られているのでしょうか、ファッションの裏側には児童労働など世界と未来の課題が潜んでいます。みんなで考えてみましょう!

